

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):教養学部 1年

参加プログラム: NTUIU

派遣先大学:台湾大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) ③公務員 4.非営利団体  
5.民間企業(業界: ) 6.起業 7.その他( )

派遣先大学の概要

東京大学で10日間、台湾大学で10日間学んだ。

参加した動機

中国語を以前から学んでいたためさらなる語学の学習を目的とした。

参加の準備

① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

プログラム前日まで試験だったため、あらかじめ準備しておくことが大事。

② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

なし

③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

なし

④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

OSSMA

⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

なし

⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEFL iBT113

⑦ 日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

なし

学習・研究について

① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

午前中に日本人、台湾人の教授から日本、中国、台湾について経済、社会、軍事面などについての講義を受ける。事前の予習は教授から提示された論文など。

② 学習・研究面でのアドバイス

英語をかなり話せないと難しいと思う。

③ 語学面での苦勞・アドバイス等

全員英語を話せるため英語ができれば大丈夫。しかし台湾人の多くが日本語も話せるため、内心自分は中国語がそれほど話すことができない劣等感があつた。

生活について

① 泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

あらかじめ指定されていたホテルに宿泊。1人部屋でシングルベッド。バスタブはなし。Free WiFiあり。非常に安価。

② 活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

大学へは徒歩15分程度だが、市内で貸し出されている自転車を使っていた。交通機関はほぼ地下鉄か自転車。夏は非常に暑いため注意。

③ 機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は非常に良い。

④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

宿泊費は毎日 NT\$1900、朝食込。そのほかの経費は航空賃を除くと 4 万円程度。

⑤ 学金(支給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)  
JASSO。

⑥ 習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)  
午後のフィールドトリップ後は観光。

派遣先大学の環境について

① 加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)  
ホテル、大学ともに非常に充実。

② 学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)  
充実。食堂はあまり使わず。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

以前から興味があった中国、台湾について様々な方面から学ぶことができたことはもちろん、台湾人、中国人、アメリカ人などの意見を多く聞く機会に恵まれた。日本では外務省や朝日新聞、NHK など普段入ることができない場所を訪問し、台湾では同様のメディアや工場を巡り、観光に終わらず多くの刺激を受けた。また多くの学生が大学3、4年、または大学院生であったため専門的な分野の話をきくこともでき、非常にためになった。このプログラムを通じて自分がやはり中国について興味があること、そして報道について興味があることを再確認することができた。

計 21 日間ともに過ごした仲間とは今後も連絡をとっていくことを強く勧められ、自分もちろんそうするつもりである。参加して本当に良かったと思えるプログラムであった。

② 参加後の予定

③ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

中国に興味がある、または語学を上達させたい、充実した夏にしたい人はぜひ参加すべきプログラム。

その他

① 備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):東京大学教養学部文科1類2年

参加プログラム: 台湾サマープログラム派遣先大学:台湾大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体  
5.民間企業(業界: ) 6.起業 7.その他(未定)

派遣先大学の概要

大学自体の設備は新しい。特に図書館が24時間開業であることに驚いた。

参加した動機

台湾という国に興味があった。第二外国語である中国語を使う機会が欲しかった。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

書類手続は細かい不備でもあってはならないので気をつけてください。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ありませんでした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

ありませんでした。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

OSSMAと海外付帯保険

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

2年は法社会学の試験と重なるので前倒し試験の手続を4月中に行ってください。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEIC830

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

台湾の歴史的背景および現在の政治概況

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

②学習・研究面でのアドバイス

中国語と英語の語学をできるだけする。

③語学面での苦勞・アドバイス等

カラオケに行ったとき用に一曲中国語の歌が歌えると良いかも。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

公務員用ホテル

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

日本より高温、サングラスの着用がお勧め

また一日5ドルで借りれる自転車が普及しているので交通手段は安価

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

朝食をきちんととる

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空費、食費、お土産代

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSO 6万円 宿泊費とほぼ同額

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

NTU生に観光地やカラオケに連れて行ってもらう

おいしい飲食店に行く

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

図書館WIFI使用可能

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

同上

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

英語で話すことに抵抗が薄れた。周りのNTU生は優秀でもっと自分も研鑽を積もうと思った。また、国土の小さな台湾が独立に対して強い意識を持っていることを感じ、日本にはない危機感から国際化への意識の違いを感じた。

授業のスタイルは欧米と同じディスカッションスタイルで自分の意見を持っていることが求められ、毎日参考文献の予習が欠かせなかった。

TAが元サマープログラム参加生で相談しやすくとても親身になってくれた。

②参加後の予定

この体験をサークルのメンバーの前で話す機会を設けたい。

また、今後もNTU生との交流を続けたい。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

迷ったらぜひ参加してみてください。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

台湾大学のホームページ

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 公共政策大学院1年

参加プログラム: 国際本部担当奨学金付き夏季短期留学プログラム

派遣先大学: 国立台湾大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界: ) 6.起業 7.その他( ) **3**

派遣先大学の概要

国立台湾大学は日本の植民地統治下で、東京大学同様帝国大学の一つとして設立された。第二次世界大戦後、国民党の厳しい統制が行われ、台湾大には国家に奉仕する人材を養成することが期待され、教育研究の内容は制限されていた。統制令が廃止されたのちはおおむね自由な研究活動が行われている。

参加した動機

大学院で国際公共政策を専攻しており、特に日中関係に関心を持っていたため、日中両国と特殊なかかわりを持つ台湾で学ぶことで得るものは大きいと考えた。同時に私は英語を用いた討論に不安を抱えており、語学力の向上を図りたいと考えていたが、このプログラムに要求される語学力のレベルは自分にとってちょうどいいと感じ、応募した。

参加の準備

① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

手続きに関しては、国際本部からいただいた工程表通りに進めれば特に問題なかったと思う。宿泊費の支払い等のためクレジットカードを新規に発行しなければならなかったが、それが一番時間を要した。

② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは不要だった。

③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

持病がないので、特に行わなかった。

④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

国際本部から紹介された付帯海学と OSSMA に加入した。旅行代理店でも保険を勧められたが、そちらには加入しなかった。

⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

秋学期学際情報学府に単位認定を申請できるとのことなので、申請を考する予定である(2単位)。

⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

特別な準備は行わなかったが、院試の際に受けた TOEFL は 91 点だった。講義や卒業論文の準備等で社会科学系の英語論文を読むことにはある程度習熟していた。

⑦ 日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

ポケット Wi-Fi を借りる、もしくは Free Wi-Fi のアカウントを作るなどして通信手段を確保したほうがよい。

学習・研究について

① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

予習用の文献は専用の Drop Box にアップロードされていたので、予習は基本的にそれを読む形だった。自分はノートも兼ねてタブレット PC を持っていったが、書き込み等したい場合は日本で印刷しておいたほうがよいと思う。リサーチではどのチームも基本的にクラウドを使ってプレゼンテーションを準備していたので、PC と通信環境は必須である。日本語の文献も必要なら事前に用意して持ち込むべきだと思う。

講義のスタイルだが、東京ラウンドでは講義 2 時間、討議 1 時間が基本だった。しかし台湾大学ではほぼ講義に時間が費やされ、気になることがあればその都度挙手して質問する形式であり、生徒が意見を述べる機会は少なかった。そういった意味で東京ラウンドの方が高い参加度が求められたと思う。多くの教授は基礎的な国際政治学の理論や時事問題を学生が理解していることを前提に講義を進めているように感じられた。また、かなりの講義が中国情勢を題材としているため、参加学生は日台にとどまらず中国の近年の台頭にも関心を持っていたほうが望ましいのではないか。

② 学習・研究面でのアドバイス

国際政治の基礎理論は知っておいたほうがよい。また台湾でどのようなことが社会問題になっているのかは事前に把握したほうがよい。例えば今回は太陽花運動という学生運動が授業で頻繁に取り上げられたが、インターネット、もしくは事前に相手校の学生に聞くなどして情報を収集すると授業の理解が助けられる。また、統計学や経済学について

の知識があるとリサーチを行う際に役立つように感じられた。

私は院生として参加したが、院生はリサーチを主導することが期待されるので、チーム内の議論を主導したり、適切な方法論を提示したり、信頼できる文献やデータベースを紹介したりといった形で学部生の手助けができるとよいと思う。

### ③ 語学面での苦勞・アドバイス等

講義中は特に問題なかったが、参加学生の大半が中国語話者だったため、日本人や米国人の学生には日常会話の内容が理解できないことが時折あった。英語についてはやや不得意な学生が一定数いる一方、片言の中国語や日本語が話せる学生もいたため、場合によっては3か国語を混ぜて会話していた。

### 生活について

#### ① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学側から斡旋されたホテルに宿泊した。大学から近く、フロントには日本語を話せる職員の方もいらしたので、特に苦勞する点はなかったが、セーフティーボックスがなかった。

#### ② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

日常の買い物は現金、宿泊料金など大金を支払う必要が生じた場合はクレジットカードを使うようにしていた。10日でおおよそ4万円使った。宿舎に金庫がなかったため、貴重品は常に携帯していた。主な移動手段は地下鉄と台北市のレンタサイクルだった(共通の交通ICカードで利用できるが、レンタサイクルを利用する場合は台湾国内の電話番号が必要なため、現地学生の手助けが必要)。渡航時は台風のシーズンだったので、街中には倒木等が多く、常に台風の進路に注意する必要がある。食事は基本的にホテルで食べるか、現地の学生と一緒に食べた。

#### ③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

特別な準備はしなかったが、夜間は一人で外出せず、早めに宿舎に戻るよう心掛けた。ほとんど現地の学生かTAと一緒に行動していた。当時台風が接近しており帰国便が欠航になる恐れがあったため、旅行代理店のオフィスの位置・代替のチケットの入手方法を確認し、いざというときは台湾大の学生の家に泊めてもらえるよう手配した。

#### ④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空券の代金が往復で約9万円、ホテルの宿泊料が一泊当たり約8000円程度

そのほか現金約4万円を雑費として持参したが、5000円程余った。交通ICには500台湾ドル入金していたが、そちらも余った。

#### ⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

特に受給していない。

#### ⑤ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

現地の学生と買い物に行ったり、観光をしたり、プレゼンテーションの準備をした。参加者の誕生日にはサプライズで毎回お祝いをした。TAも一緒に来ることが多く、最後は空港まで見送りに来てくれた。

### 派遣先大学の環境について

#### ① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

学生・TAが生活面でのサポートをしてくれたし、トラブルが起きた際にはTAや同行した教授が相談に乗ってくれた。学習面に関しては、TAがリサーチの方向性等について、希望すればいつでもフィードバックをしてくれた。

#### ② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館は電子資料が充実していたが、必要な書籍の一部は日本から持ち込んだ。大学のWi-Fiアカウントは現地の学生のものを借りる必要があるが、ゲストアカウントは提供されなかった。

### プログラムを振り返って

#### ① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

第一に自分の力で海外に渡航し、そこで何とか外国語を使って生活していくという経験自体が自分を成長させてくれたと思う。これまで英語の講義を履修した経験はあったので、読む・聞くといった受動的なスキルに関しては何とかなると考えていたが、話すことに関してはまったく自信がなかった。しかし拙いながらも英語を使って互いの国の政治情勢について議論した経験は、今後の大学のカリキュラムにおいても必ず役に立つと思う。

第二に院生としてプログラムに参加した実感であるが、学部生とチームを組みリサーチを主導するという経験も貴重なものであったと思う。これまで自分が培ってきた方法論や知識をどう応用できるか、どうやって10日という短い期間で完遂できるような質が高くかつ現実的なリサーチの計画・アプローチを組み立てるか、どうやって学部生の意見を尊重しつつ適切なアドバイスをするかといった点には非常に気を使った。

第三に国際関係論を学ぶ学生としても、台湾は非常に興味深い地域だった。台湾はほとんどの国に国家として承認されておらず、また大半の国際機関にも所属していない一方で、事実上は主権国家として認識されている。そうしたと特殊な国家において現在の国際情勢、あるいは環境保護や自由貿易などの国際的な枠組みがどのように理解されているのかというのは大変興味深いテーマだった。同時に今まさに議論されている集団安全保障の問題について考える上でも、台湾海峡はよい題材であると感じた。

第四に政治について議論すること自体が日本人の学生にとって新鮮な経験であったと思う。日本で若年層の投票率が低下し、政治について語ることがある種タブー視される一方で、台湾では近年学生運動が激しさを増し、台湾大でも多くの学生がこうした運動へのシンパシーや支援を公然と口にしていた。こうした両国の情勢の違いを認識すると同時に、台湾大の学生の日本政治に関する質問に答えることで改めて自分たちの国・世代について客観的に考えることができた。

### ③ 参加後の予定

公共政策大学院では英語の講義も多く開講されているので、今後はそういった講義を積極的に受講していきたいと考えている。参加学生との交流は今後も続くと思う。  
もし機会があれば、北東アジアの別の大学でも講義を受けてみたいと感じた。

### ⑥ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

日中台を含む北東アジアの情勢について幅広い関心を持つ学生にとって、このプログラムは大変意義深いものになると思います。21日間で2度のプレゼンテーションを行うのはかなりタイトなスケジュールではありますが、それぞれの役割を果たしてこれを乗り越えた経験はまだ専攻を決めていない学生にとっても、院生にとっても価値があるものとなるのではないのでしょうか。

### その他

#### ① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

主に国際本部から配布された書類を参考に手続きを進めた。入国方法や交通機関について調べる際にはガイドブックを読んだり、旅行代理店と相談したりするのも良いと思う。このプログラムではまず東大で講義を行った後台湾大学に移動したので、現地の情報については台湾大学の学生に確認することができた。実際に聞くのが一番役に立つと思う。

#### ④ その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 公共政策大学院

参加プログラム: NTU-UTokyo Joint Summer Program 派遣先大学: 台湾国立大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界: ) 6.起業 7.その他( )

派遣先大学の概要

Located in the heart of Taipei, the vast campus of NTU (National Taipei University) offers top facilities and easy access to its students. The bustling student area around campus is very convenient for eating, shopping and cultural activities.

参加した動機

I participated in the course to learn more about the multifaceted Japanese-Taiwanese relations and their future perspective in the international community.

参加の準備

① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

As the application procedures are rather extensive, early preparations are recommended.

② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

Making sure to meet the possible visa requirements of one's own country before entering Taiwan is essential before applying as failing to meet the requirements may lead to a refusal of entry to the country.

③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

No special medical preparations(check-ups, etc.) were necessary before going on the trip.

④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

Entering the travel insurance is a relatively quick process if all the necessary documents are prepared well in advance.

⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

Registering the course at the beginning of the Winter Semester via UT-mate is necessary.

⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

Strong English skills are highly recommended as research, the presentation of results as well as company tours are conducted in English.

⑦ 日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

Bringing an umbrella is certainly recommended.

学習・研究について

① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

This program is a rigid 20 day course that teaches about the relations between Japan in Taiwan. As such one round (10 days) is conducted in each country. The main structure of the course is that lectures are held in the mornings whilst company tours are scheduled for the afternoons. There are some days off during both rounds which can be used for leisure as well as to work on the research project. There is a mid-term presentation (after the first round) and a final presentation at the end of the second round.

② 学習・研究面でのアドバイス

Finding a research question and working on it stringently in a team is highly recommendable.

③ 語学面での苦勞・アドバイス等

As most participants are non-native speakers of English respecting others abilities and efforts is recommended for the group harmony and fruitful research results.

## 生活について

### ① 泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

The National Taiwan University organized a hotel located very close to the campus (15 min on foot). The hotel met very high standards in terms of hygiene, service and facilities. It was very useful to have a laundry area in the basement of the hotel so that one could do one's laundry during the 10 day stay in Taipei.

### ② 活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

As the program took place in August rain showers were an almost daily event. Though Taipei has subtropical climate, the weather was very similar to Japanese summer. Drinking a lot during the day is essential in order to compensate the loss of body fluids. Also bringing some light garment along to wear when indoors is highly recommended as the air conditioning is rather strong and in some cases cannot be regulated.

### ③ 機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

I never felt that public safety was an issue in Taipei. Travelling as a group in most cases I never was exposed to any dangerous situation.

### ④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

Flight cost 38,000 yen (non-LCC)

Food 30,000 yen

Souvenirs 10,000 yen

Entertainment 20,000 yen

### ⑤ 学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

As I was already receiving a private scholarship it was not possible for me to receive the funding provided by the University of Tokyo.

### ⑥ 習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

My research group organized a lot of interesting activities on our days off. Together we went out for meals, visited cultural facilities and explored a neighboring town for our field work.

## 派遣先大学の環境について

### ① 加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

The staff at NTU all spoke excellent English which made handling administrative no problem whatsoever.

### ② 学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

The facilities of NTU were of world class quality and which made studying in such an environment all the more enjoyable.

## プログラムを振り返って

### ① ログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

Thinking back, I have learned a lot of things from an academic viewpoint on the intricate relations existing between countries in East Asia. From an inter-personal level this trip was an eye-opening experience for me as interacting with people from a different culture has helped me broaden my own perspective and it is an invaluable experience that I would recommend to anyone applying for the program.

### ② 加後の予定

I will stay in touch with my team members and hope to see them soon again. I would like to use my knowledge I gained for my Master's thesis which I will write next year.

### ③ 後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

I highly recommend this program as it helps you understand the world you live in a bit better and offers so much fun and the opportunities to make a lot of new friends at the same time!

## その他

### ① 備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

When looking for affordable flights:

<http://www.skyscanner.jp/>

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

The University of Tokyo Study Abroad/Student Exchange Program Report Form

Date: 08/27/2015

Faculty/Graduate School: College of Arts and Sciences Year: 1  
 Program Attended: National Taiwan University, University of Illinois and University of Tokyo Joint Summer Program

Organizing Overseas Institution/University: National Taiwan University

Occupation after graduation (intended): 1

- |             |  |                     |
|-------------|--|---------------------|
| 1. Research | 2. Specialist (Medical · Judiciary · Accountant) | 3. Civil Service    |
| 4. NPO      | 5. Private sector (Type of industry: )           | 6. Entrepreneurship |
| 7. Others ( | )  |                     |

Outline of the receiving institution overseas  
 National Taiwan University is the best university in Taiwan, one of the most prestigious institutions in Asia.

Reason why you decided to participate  
 With a major in Japan in East Asia studies, I hope to have a deeper experience of the international relations between Taiwan, mainland China, and Japan.

Preparation for the program

(1) Application process (please give any advice on dealing with the application process)  
 Check Go Global site frequently to get the information needed. English language examinations such as TOEFL or IELTS should be prepared early.

(2) Visa application (type of visa, where to apply, processing time, any advice on visa application)  
 Teaching assistant from National Taiwan University would help with relevant procedures.

(3) Medical check-ups (health check-ups before departure, inoculations, etc.)  
 No particular medical check-up.

(4) Insurance (information about insurance for travel/studying abroad purchased)  
 Enrollment in the OSSMA service and Futai Kaigaku is mandatory.

(5) Procedures required by your Faculty/Graduate School (any information about course registration, credits, exams, submission of dissertations etc)  
 No credits offered for undergraduates. Only the submission of relevant application forms and transcripts is necessary.

(6) Language preparation (language level (English, etc.), lessons etc.)  
 As a PEAK student, all my courses are conducted in English.

(7) Items which should be taken with you from Japan and any other advice on things which should be done before leaving Japan.  
 Make sure to get all necessary procedures for insurance done. Getting the contact information of Professors or teaching assistants in charge of this program would be helpful.

Aspects of life

(1) Accommodation (Type (home-stay, room-sharing etc.), cost, atmosphere/appearance of accommodation, how you found it, etc.)  
 The hotel reserved by NTU is near the campus, with 10-minute walk from the lecture building. The cost of single room is NTD1940 per night with breakfast. Although convenient to find a taxi, the hotel is not so close to MTR stations. However, the bicycle renting system is convenient and close to the hotel for short-distance transportation.

(2) Living environment (such as climate, environment around the institution, transport facilities, food, managing your money (overseas money transfer, credit cards))  
 Taiwan in August is quite hot and rains a lot. Sun-proof work and umbrellas should be prepared early. NTU is in the downtown area of Taipei, with two night markets nearby. Convenient stores, cafes, restaurants, and supermarkets are easy to find around the campus. It takes 10-20 minutes by subway to go to other famous districts. Credit cards are not so widely used. To exchange cash

beforehand is recommended.

(3) Aspects of risk and safety management (safety of local region, condition of medical facilities, any action taken in maintaining your mental and physical health, etc.)

Taipei is a quite safe city, but still should be careful when going to night markets or crowded places.

(4) Details of expenses (breakdown of costs, such as airfare, program fees, cost of required books, rent, food, travel cost, money spent on entertainment)

One-way airfare JPY20,000. Breakfast is included in room price, and lunch is provided by the program. Daily meal expense is around JPY1,500 on average (dinner, snacks, drinks, etc.). Daily transportation fee (bus, subway, city bicycle etc.) charged into a SUICA/PASMO-like card is around JPY2,000 for 11 days.

(5) Financial aid (if you were receiving financial aid/scholarships, please give the name of the source of the aid, amount, and how you found it, etc.)

Scholarship from the University of Tokyo: JPY60,000

(6) Activities other than academic/research work (sports, cultural, volunteer/internship, weekend activities, etc.)

Everyday field trip to factories, newspaper, or TV studios. We also went to mountains and night markets.

Environment of the receiving institution

(1) Support facilities for students taking part in the program (such as language, academic, living support mechanism and counseling services)

Reading assignments providing background knowledge for lectures are distributed before the start of the program. Teaching assistants take great care of everything from academic to daily life. Lunch boxes are provided everyday in classroom.

(2) Facilities (libraries, sports facilities, cafeteria, IT equipment and facilities, etc.)

We share the student account with NTU students to get connect to the Wi-Fi on NTU campus. There is free Wi-Fi in the hotel as well. NTU libraries can be accessed with NTU student card.

Looking back over the program

(1) The significance of the program and how you have developed by taking part in it, any other impression from having studied abroad

It is a great program to deepen the knowledge in social sciences subjects especially International Relations on East Asian regions. All professors gave impressive lectures on interdisciplinary perspective to give an overall outlook of the history, politics, economic condition, and relationship between countries.

Studying in Taipei is also a fascinating experience to know about the seminars and differences between Taiwan, mainland China and Japan. Group presentation is an effective way to exchange ideas with students from different schools and regions.

(2) Your plans having studied abroad

I hope to continue my research in East Asia studies and to learn more on the cultural uniqueness of Taiwan. I hope to find more opportunities to study abroad in other countries to experience more local cultures and integrate my experiences with my knowledge got from books and lectures.

(3) Any messages or advice for future participants

The schedule and workload of this program are quite intensive, especially in the extreme heat of both Tokyo and Taipei. However, be sure to fully and actively participate in every lecture and field trip, and try to experience as much new things as possible, so that nothing would remain as a regret.

Miscellaneous

(1) Websites or publications which were useful while preparing for or during your time overseas  
Facebook for contact with participants from different institutions. UTokyo database for academic research when preparing for presentation.

(2) Please submit any photographs which may be used on the University of Tokyo websites or publications.

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 教養学部2年

参加プログラム: NTUIU 派遣先大学: 国立台湾大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業(業界:金融) 6.起業 7.その他( )

派遣先大学の概要

国立台湾大学は、台北に立地している台湾のベスト大学です。世界有名大学との交流が盛んであって、このプログラムは既に4回目となっています。

参加した動機

1 前に全然知らない台湾に行って、台湾の人々との交流を増えたいと思い、参加しました。台湾は中国との関係も微妙であり、台湾の若者の日常と考えを知りたかったです。  
2 プログラムの授業を通して、日本、台湾、中国の政治や経済などの知識を増え、アジア圏における国際交流に貢献したいと思いました。

参加の準備

- ① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)  
できるだけ早めに手続きをしておいた方がいいと思います。特に留学生の方ですと、台湾の上陸許可が必要なもので、早くすませることをおすすめします。
- ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)  
台湾の TA さんが申請していただけるので、指定書類をそろえたうえで提出するだけで十分です。
- ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)  
特にありません。
- ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)  
教務課の指示に従えば十分です。
- ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)  
特にありません。
- ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)  
政治、経済に関する専門用語を覚えた方がいいと思います。
- ⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど  
日本の代表的なお土産を用意した方がいいと思います。

学習・研究について

- ①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)  
授業計画はとても詳しく、毎回の資料もきちんと準備しているので、大変助かります。授業の前に先生が指示した論文を読み、できれば自分でテーマに相関する資料を探してもいいと思います。フィールドワークも楽しくて勉強になります。
- ②学習・研究面でのアドバイス  
グループワークを通してプレゼンテーションをするので、まじめにほかのメンバーと協力してやった方が望ましい。
- ③語学面での苦勞・アドバイス等  
グループディスカッションも英語で行われるので、専門用語の使用は大切です。

生活について

- ①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)  
とても高級名ホテルに泊まり、値段も適宜です。
- ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)  
台北は大変住みやすい都市だと思いました。交通費も食事も安いです。
- ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

特にありません。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)  
15万円台。ホテル代、食費、交通費だけです。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)  
東京大学から支給した6万円。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)  
フィールドワーク後、台湾の学生たちといろいろ遊んで観光しました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)  
先生方はとても親切で、生活や学習に関していろいろ丁寧に聞きました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)  
図書館はとても豪華でした。施設は完璧で、使いやすいと思います。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感  
このプログラムに参加することによって、台湾に対する印象が全面的に変わりました。一番満足している点は、台湾の若者の現状の理解に達成したという点です。新しい友達も作って、一緒に忘れられない三週間を過ごしました。

②参加後の予定  
これからも他の国に留学したいと思います。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス  
このプログラムは、参加して絶対に後悔しないプログラムです。語学に自信がない方でも、気軽に参加してほしいです。母国語が英語ではない学生と英語でしゃべるのはより楽ですので、英語を学びたい方にもおすすめです。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。